

■ 会社概要 (平成26年9月30日現在)

Corporate data

■所在地 東京都豊島区東池袋三丁目23番14号

■設立 昭和52年5月6日

■株式の状況

| | |
|------------------|-------------|
| 1 発行可能株式総数 | 40,000,000株 |
| 2 発行済株式の総数 | 22,459,300株 |
| 3 株主数 | 5,435名 |
| 4 大株主の状況 (上位10名) | |

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|--|---------|-------|
| エー・アンド・デイ従業員持株会 | 1,694千株 | 7.93% |
| (株)フルカワ | 1,533 | 7.18 |
| (株)デンソー | 1,122 | 5.25 |
| ピーイーエフオーフィデリティロープライズストックファンド (プリンシパル オールセクター サポートフォリオ) | 1,072 | 5.02 |
| (株)埼玉りそな銀行 | 606 | 2.84 |
| 日本マスタートラスト信託銀行(信託口) | 562 | 2.63 |
| (株)足利銀行 | 490 | 2.29 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口) | 370 | 1.73 |
| HSBC BANK PLC A/C MARATHON FUSION JAPAN PARTNERSHIP LP | 338 | 1.58 |
| ケービーエル ヨーロピアンプライベートバンカーズ オーディナリー アカウント 107501 | 337 | 1.58 |

(注) 1. 自己株式 (1,091,247株) は除いて記載しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■従業員 723名

■資本金 6,388,551,300円

■5 重要な子会社の状況

| 会社名 | 資本金 | 出資比率 | 主要な事業内容 |
|-----------------------|---------------|--------|--------------------------|
| 研精工業株式会社 | 81,800千円 | 100.0% | 電子天秤及び医療機器の製造 |
| リトラ株式会社 | 200,000千円 | 100.0% | インジケータ、ロードセル及び電子式天秤の製造 |
| 株式会社オリエンテック | 268,640千円 | 100.0% | 計測機器の製造 |
| 株式会社サム電子機械 | 330,000千円 | 100.0% | 各種試験装置の製造、販売 |
| 株式会社ベスト測器 | 20,000千円 | 100.0% | 環境計測機器の開発、製造、販売 |
| シーエム精機株式会社 | 50,000千円 | 90.0% | ウェイトチェック、金属検出機の製造、販売 |
| 株式会社MBS | 495,000千円 | 50.0% | 自動車計測に関するエンジニアリングサービスの提供 |
| A&D ENGINEERING, INC. | 200千米ドル | 100.0% | 当社製品の販売 (米国) |
| 愛安徳電子 (深圳) 有限公司 | 45,000千香港ドル | 100.0% | 電子血圧計及び計量機器の製造 |
| A&D RUS CO., LTD. | 505,247千露ループル | 100.0% | 当社製品の販売 (ロシア) |

ホームページのご案内

当社ホームページでは、IR情報や技術情報、会社情報等充実した内容となっております。

今後も株主の皆様に向けて当社の情報を提供してまいりますので、どうぞご覧ください。

<http://www.aandd.co.jp/>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月下旬

株主確定基準日 3月31日
その他必要があるときは、予め公告いたします。

単元株式数 100株

公告方法 電子公告により行います。ただし、電子公告によることのできない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL <http://www.aandd.co.jp/>

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
本店証券代行部

<郵便物送付先・お問い合わせ先>

| | 証券会社に口座をお持ちの場合 | 特別口座の場合 |
|-----------|--|---|
| 郵便物送付先 | | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部 |
| 電話お問い合わせ先 | お取引の証券会社になります。 | 0120-288-324 (フリーダイヤル) |
| お取扱店 | | みずほ信託銀行 全国本支店 みずほ証券 全国本支店 |
| 未払配当金の支払 | みずほ信託銀行及びみずほ銀行の全国本支店 | |
| ご注意 | 支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。 | 単元未満の買取以外の株式売買はできません。 |



株式会社エー・アンド・デイ

〒170-0013 東京都豊島区東池袋三丁目23番14号
<http://www.aandd.co.jp/>



第38期 中間報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日

A&D 株式会社 **エー・アンド・デイ**

東京証券取引所市場第一部上場 証券コード：7745

A&D Topics A&Dトピックス

■ Topics 1

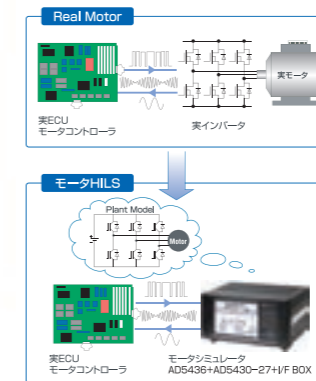
バッテリーHILSおよびモータHILS (DSP)

EV (電気自動車) やHEV (ハイブリッド車) のバッテリーおよびモータ制御開発をサポート

バッテリーHILSは実際のバッテリーでは困難な、セルの充電状態をシミュレーションで再現する製品で、BMS (バッテリー マネージメント システム) の制御ロジック開発・検証に貢献します。



バッテリーHILS外観



モータHILS概略図

BMS (バッテリー マネージメント システム) とは

EV/HEVに搭載のバッテリーパックは、多くのセルを直列に接続したスタック構造です。
このバッテリーパックの充放電サイクルの中で、セルの容量バラツキにより、例えば他のセルより容量が小さいセルでは、充放電サイクルの過程で深放電状態に陥り、バッテリーパック全体の動作不良を引き起こす可能性があります。この様なことを防ぐ為にバッテリーマネージメントシステムにおいて各セルの状態を監視し、セルごとに充放電することで各セルのSOC (State Of Charge) をバランスし動作不良を防ぐことが可能となります。

モータHILSは実際のモータを使わずにモータモデルによるシミュレーションで実モータに近い電流波形を再現することで、モータコントローラの動作検証を可能にする製品です。

これらの製品はテストの自動化や、今後ニーズが集まる、高いレベルのテスト要求に答える製品です。

■ Topics 2

新製品：業務用自動血圧計TM-2657

診之助Slimは、業務用全自動血圧計ではクラス最小サイズを実現した、設置場所を選ばない省スペース型です。

本体重量は約5.5Kgと、従来品より3.5Kg軽量化し、出張健診など持ち運びが必要な場面でも手軽に移動することが可能です。

医療機関のみならず、薬局、スポーツ施設、公共機関、健診、企業健康管理など、幅広い場所でご使用いただける全自動血圧計です。

診之助 Slim
Shimosuke



業務用自動血圧計TM-2657

株主の皆様へ

To our shareholders

当第2四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経済環境は、日本においては、大企業を中心に業績の改善が見られるものの、消費税率引き上げと実質賃金の減少を背景とした個人消費の停滞や各種経済指標での弱さも見られ、円安を背景とした輸入原材料の価格上昇等と合わせ先行きが不透明な状況が続いております。

米国においては、雇用環境の改善による個人消費の伸び等を背景に回復基調が続きましたが、欧州においては、英国やドイツでは緩やかな回復が見られたものの他EU諸国では成長が鈍化しており、東欧や中東での政情不安を背景に先行きが懸念されます。一方、中国及び新興国経済においては、特に中国の経済拡大が緩やかになっているほか、ブラジルやインドといった新興国で成長が鈍化しており、拡大基調にあるものの減速傾向となりました。このような状況の中、当社グループでは、新製品開発、新規市場の開拓に注力し、お客様や社会における多様なニーズやその変化に対応してまいりました。また、引き続き積極的な開発投資を行うことで、基盤技術の研磨に努めると共に更なる応用技術力の強化を図ってまいりました。

この結果、第2四半期連結累計期間における売上高は17,308百万円（前年同期比3.7%増）、営業損失は235百万円（前年同期は営業損失190百万円）、経常損失は415百万円（前年同期は経常損失354百万円）、四半期純損失は430百万円（前年同期は四半期純損失386百万円）となりました。

今後におきましては、日本国内では消費増税後の落ち込みから持ち直し、緩やかな回復が見込まれる一方、円安などによる実質所得の目減りへの懸念が消費マインドの回復を停滞させる動きもあり、景気の動向は引き続き不透明感が残るものと思われまます。また、米国では引き続き緩やかな景気回復が見込まれる一方、欧州や新興国経済の先行きや、政治情勢にも不透明感が残ることが予想されます。

このように当社を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続くと思われまますが、当社グループでは、更なる技術研鑽と新規市場の開拓、新規顧客の獲得に尽力すると共に、試験機やシステム品等の製品の標準化や海外生産の強化によって、一層の原価低減に努めてまいります。また、より効果的な研究開発投資を進めていくと共に、販売費及び一般管理費削減のため経費管理の強化に努め、グループを挙げて業績向上に邁進する所存であります。

まず計測・計量機器事業は、DSPシステムにおきましては、計測器・試験機メーカーである当社が提唱してきた自動車開発コンセプト「MBSim (Model based simulation)」がようやく自動車・タイヤ業界に認知され、エンジンベンチシステムやタイヤ試験機などの大型設備の受注が増加しておりますが、今後も新たな試験・計測技術の提案を積極的に行い、昨年自動車開発を支援するための受託試験及びコンサルティングを目的として設立した㈱MBSと共に同業界の発展の一翼を担っていく所存であります。

計量機器におきましては、DSP技術を用いたシステム製品の受注獲得に注力すると共に、精密天秤によって参入した理化学市場向けに新製品を開発・投入し、販売強化を進めてまいります。また、ウェイトチェッカ及び金属検出機については、海外市場への展開も視野に、販売、生産に一層注力するほか、この分野での更なる技術開発と製品の拡充により、他社との差別化を図ってまいります。

一方、医療・健康機器事業は、医療用の計量器や血圧計、家庭向けの健康機器に通信機能を付加することで、遠隔医療や在宅医療といった医療ICT (Information communication technology: 情報通信技術) 向けの機器を拡充していくほか、健康管理サービスと連携した製品を提案・拡充してまいります。

健康機器では、高度医療から在宅医療、検診向けに使われている製品技術を、家庭向けに展開している強みを背景に、日本・米国・欧州のみならず、中国並びに新興国も含めた各家庭で求められる製品を拡充し、市場開拓に努めてまいります。

生産面では、中国現地法人での生産において、人元高及び人件費等コスト増に対応するため自動化や外部委託を活用していくほか、適切なリスクの管理と生産最適化を図ってまいります。

これらの施策によって、通期業績見通しは連結売上高41,200百万円、営業利益2,000百万円、経常利益1,700百万円、当期純利益1,000百万円を予定しております。

以上のとおり、当第2四半期連結累計期間の業績は厳しいものの、DSPシステムの受注好調などにより業績の伸長が見込まれるため、通期における連結業績予想は据え置きといたしました。このことを踏まえ、株主の皆様への中間配当金につきましては、予定通り1株につき5円といたしました。

株主の皆様には、今後とも格別のご理解と変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

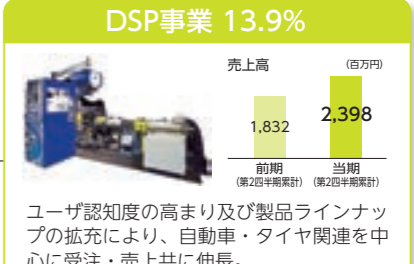
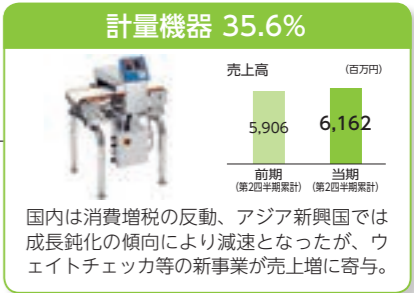
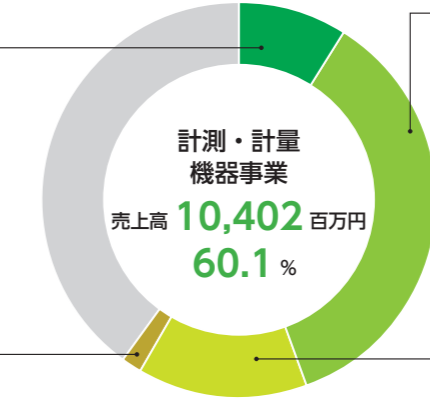
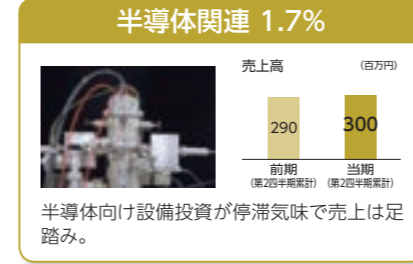
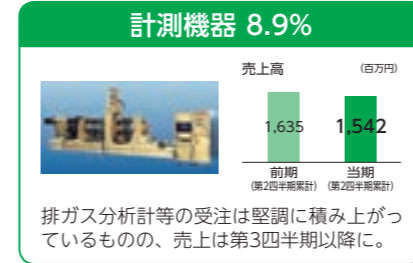


代表取締役
執行役員社長 古川 陽

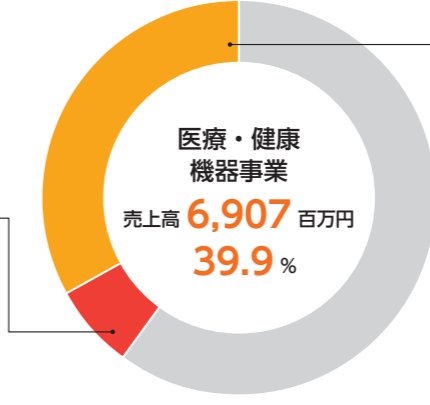
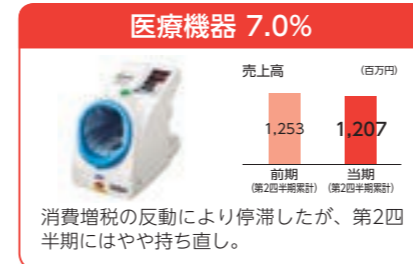
Result of business

営業の概況

計測・計量機器事業

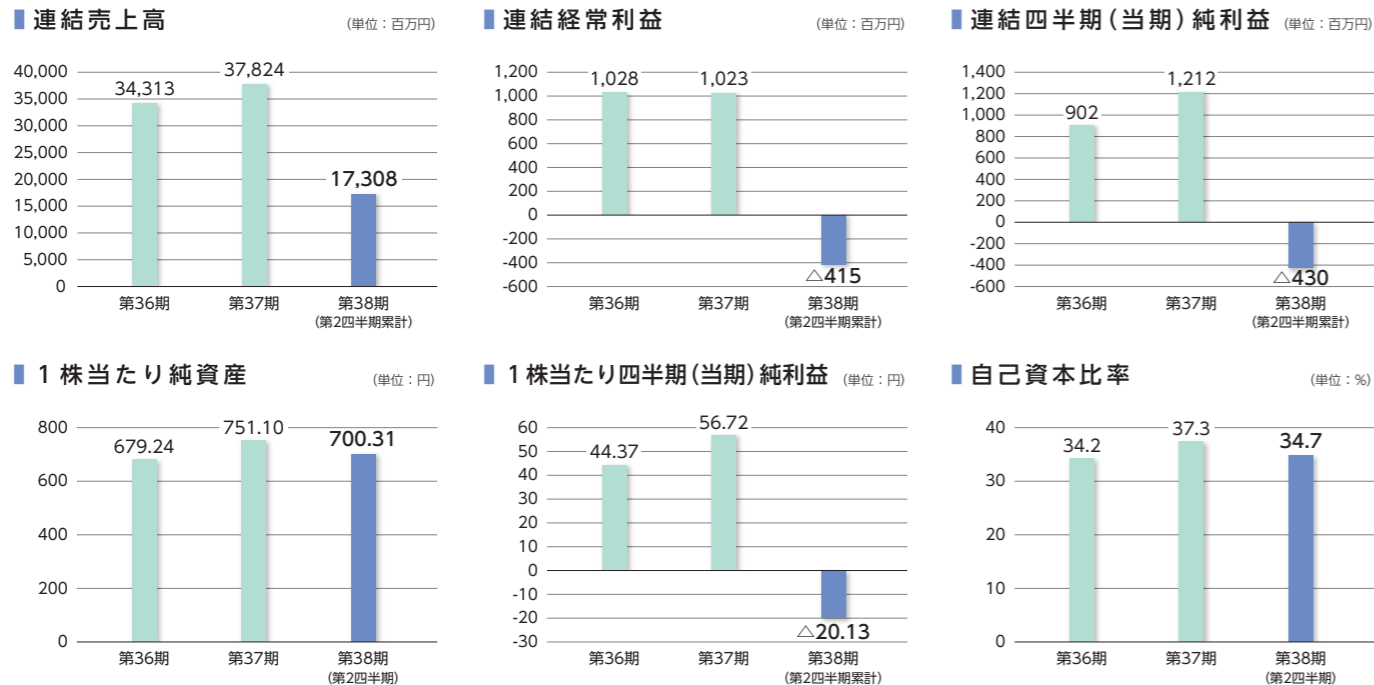


医療・健康機器事業



財務ハイライト

Financial highlights



連結財務データ

Consolidated financial data

